

# J A 静岡市

## 自己改革の成果と今後の取り組み

平成 29 年 6 月 23 日（金）

第 26 回通常総代会資料

組合員の「思い・願い」を受け止め、  
自己改革に取り組みます。

J A 静岡市は、「農家組合員の農業所得の向上」と「地域社会への適切なサービス提供」を柱に自己改革に取り組んでいます。

農業所得の向上については、J A の強みを生かし、生産部会員、ファーマーズマーケット出荷者等を重点に取り組んでいます。

また、地域に根ざした協同組合として、信用事業、共済事業、不動産事業、生活関連事業（プロパンガス、葬祭事業等）など、さまざまな事業や活動を行い、農家組合員、准組合員さらには地域の方々の暮らしに必要なサービスを提供しています。地域でさまざまなサービスを利用していただくことで、営農指導や農業関連施設への投資などが可能となり、農家組合員の農業所得の向上につながっています。

J A は、農業者を中心とした組合員が「力を合わせて」共通の願いをかなえるために組織した「協同組合」です。J A 静岡市は、話し合いを通じて組合員の「思い・願い」を受け止め、今後とも自己改革に取り組んでいきます。

## 「思い・願い」を受け止める話し合いの経過

自己改革の取り組みにあたっては、話し合いを通じて組合員の「思い・願い」を受け止めてきました。今後もさまざまな機会を通じて話し合いを行うことで、自己改革の実践や成果の共有に努めます。

### ◎TPPの長期対策ならびに次期3か年計画への要望等について

日 程：平成28年3月～6月

参加者：個人面談実施34名、営農指導員34名

女性部役員7名、役職員9名、青壮年部役員15名役職員8名

生産部会15組織、役職員17名

意 見 ・生産コストを削減したい、部会の活性化をしたい。

・共販体制のメリットを明確にしてほしい。

・新規就農者の育成による産地農業を維持してほしい。

対 応 ・資材を部会全体で利用する仕組みを作り、利用率の拡大による生産コストの低減を図りました。（平成28年度実践）

・部会内の後継者組織（青年部）の設置や女性のグループ化を進め、部会内のコミュニケーション力の向上を図ります。（3か年計画に反映）

・新規就農者育成対策の実施（平成28年度実践・3か年計画に反映）

・作業性の良い農地整備、農作業受委託を展開します。（3か年計画に反映）

### ◎次期3か年計画へのじまん市に対する要望等について

日 程：平成28年5月～6月

参加者：個人面談実施10名、職員14名

意 見 ・営業時間を延長してほしい。

・残荷の処理方法を検討してほしい。

・山間地の集荷を充実してほしい。

・店舗内外の施設を整備してほしい。（棚、ライトの増設等）

・出荷規制の内容を検討してほしい。

対 応 ・北部じまん市・あさはたじまん市の店舗内外のスポットライトを増設しました。

（平成28年度実践）

・南部じまん市の精米機を交換し、物置を設置しました。（平成28年度実践）

・長田じまん市・北部じまん市の看板・壁面の張り替えを行いました。

（平成28年度実践）

・山間地の集荷、店舗リニューアル、施設整備に取り組みます。

（3か年計画に反映）

### ◎常勤役員・青壮年部・女性部との意見交換会

日 程：平成 28 年 8 月 9 日（火）

参加者：部員 17 名、役職員 10 名

- 意 見
- ・遊休農地を減らす活動や農作業の請負事業を推進してほしい。
  - ・新規就農者や若手農業者に対する先々を考えた支援をしてほしい。

- 対 応
- ・遊休農地、耕作放棄地については、農地利用集積事業（農地中間管理事業・農地集積円滑化事業）を通じて、地域の担い手への農地の集積を推進、相談を行っています。（平成 28 年度実践・3 か年計画に反映）



### ◎ふれあい座談会の実施

期 間：平成 28 年 9 月 6 日～11 月 17 日

開催回数：61 回

参加者数：延べ 955 名

- 意 見
- ・担い手の確保と支援、育成をしてほしい。
  - ・農業所得向上のためには生産資材を安くし、出荷した農産物を高く販売してほしい など。

- 対 応
- ・担い手や新規就農者を対象にアグリスクールなどの講座を開催（平成 28 年度実践・3 か年計画に反映）
  - ・行政と連携し、助成金等の申請支援、JA 独自の支援制度を充実させます。（3 か年計画に反映）
  - ・販売センター制が徐々に成果を出し始めていますので、さらに強化していきます。（平成 28 年度実践・3 か年計画に反映）
  - ・物流センターを稼働させ生産資材価格を引き下げました。さらに仕入れ先の新規開拓や取扱品目の増加を図ります。（平成 28 年度実践・3 か年計画に反映）

### ◎認定農業者との情報交換会

日 程：平成 28 年 12 月 6 日（火）、16 日（金）

参加者：認定農業者 63 名、役職員 9 名

- 意 見
- ・制度資金の活用をしたいので知りたい、農業経営のアドバイスがほしい。
  - ・営農指導員の技術的育成をお願いしたい。

- 対 応
- ・制度資金の周知を徹底しました。（平成 28 年度実践）
  - ・次期 3 か年計画に反映
    - 生産部会の強化ならびに部会員の技術向上対策
    - 地域農業の維持、振興、および新規就農者育成
    - 農作業受委託事業の推進

- 営農指導員の育成
- J A静岡市農業振興支援策の効果的政策
- 農産物の販売戦略等

## 農家組合員の農業所得の向上

【これまでの取り組み・成果】

### 「農業チャレンジ支援事業」の実施

#### 取り組み内容

平成 27 年度から 31 年度の 5 年間に、1 億 5,000 万円を予算とし、組合員による組織およびグループに対し事業費の 90%（上限 300 万円）を支援するもの。

新規作物や新技術の開発及び導入、加工品の開発などが対象で、各事業の成果が 5 年後に 30% アップすることを目標とします。



#### 組合員の声

- ・新しい作物の取組み、新技術の導入には、初期経費が掛かるので J A で支援していただきたい。

#### 成 果

平成 27 年度 = 4 生産部会、1 地域振興会で実施、平成 28 年度 = 4 生産部会

平成 27 年度の助成額 = 4,800,500 円、平成 28 年度 = 6,770,143 円

### 「販売センター制」による農産物の有利販売

#### 取り組み内容

平成 27 年度より「販売センター制」を導入し、営業活動の強化に力を入れてきました。茶は、基幹茶工場と茶商とのマッチングを強化し、イチゴや自然薯、かんきつ類などを中心に大手業者との取引を開始しました。また、大手スーパーのインストアを目指した販売を行うなど販路を拡大しています。また、茶補完作物の販売額も増加しています。

#### 組合員の声

- ・安定的な取引が期待できる。

#### 成 果

新規販売先として、5 件と取引開始できました。



## 「物流センター制」による生産コストの削減

### 取り組み内容

平成 28 年 9 月から「物流センター」が本格的な稼働を始めました。「一括発注・一括仕入れ」によるメーカーとの価格交渉と発注・受注・物流・配送などを総合的な合理化により、取扱商品の価格の引き下げを図りました。

### 組合員の声

- ・ 生産資材商品の単価が下がった。(購入しやすくなった)
- ・ 物流センターの扱い品目を増やしてほしい。



### 成 果

商品価格の引き下げができた。

(黒マルチ 18~20%、出荷用ポリ袋 15~21%、地下足袋 8~11%の  
引き下げ等)



## 【今後の取り組み】

### 「新たな農業支援により農業を活性化します」

#### 組合員からの期待

- ・就農に当たっての栽培指導、資材や材料など設備投資のための助成があったらよい。
- ・経営安定のための指導をしてほしい。

#### 今後の取り組み

就農者等への栽培技術指導と設備投資を後押しします。

⇒就農者等（親元就農、Uターン、定年帰農者）支援対策を新設します。

担い手の農業経営安定に努めます。

⇒農業後継者塾を開催し、担い手の農業経営の安定化に努めていきます。

1 営農経済センター1 後継者を選定、農業経営の安定、改善に努めます。

### 「農業振興のためさまざまな支援策を講じます」

#### 組合員からの期待

- ・経営改善をするための支援をしてほしい。
- ・鳥獣の農産物への被害を食い止めたい。

#### 引き続き支援していきます

##### ○茶園改植支援

茶園の若返りを図るための再改植、優良品種への更新を図るための改植に対して支援します。

##### ○茶園転換支援

茶業経営の維持改善を図るため、茶園から他の作物への転換に対して支援します。

##### ○ハウス新設支援

野菜、花卉、果樹等の経営改善を図るためのハウスの新設に対して支援します。

##### ○野生鳥獣害被害防止支援

防護施設設置等に対して支援します。

⇒年間の予算枠を確保し、支援していきます。





## 地域社会へのサービス提供

【これまでの取り組み・成果】

### 「地域の拠り所となるために」 1支店1協同活動を全事業所で実施

#### 取り組み内容

「食と農」を基軸に、JAが「地域の拠り所」となることを目指し、子供たちや地域住民への食育活動、デイサービスや環境整備などの地域支援活動を行っています。



#### 組合員（地域住民）の声

- ・地域の伝統を伝えていきたい。
- ・地域を活性化したい。
- ・職員が手伝ってくれて助かる。
- ・JAを身近に感じることができた。



#### 成 果

組合員や地域住民とのつながりができた。

⇒地域の活性化や参加した人が農業・JAの理解者になった。

### 「仲間づくりのきっかけに 女性大学63人が受講」

#### 取り組み内容

平成26年度より新たな活動の仲間を増やすため、JA静岡市オトナ女子短大「シズ・カレ」を開校しました。平成26年度は25人、27年度は20人、28年度は18人が参加しました。



#### 女性大学参加者の声

- ・県外から引っ越してきて知り合いがいなかったなので、仲間ができて心強い。
- ・新しい仲間といろいろなことを学び、卒業してもつながっていきたい。

#### 成 果

楽しく活動する仲間ができ、農業、JAの理解が深まった。

⇒・次世代の女性のグループ作りができた。

・女性部への加入につながった。

## 【今後の取り組み】

### 「JAの総合事業をPRします」

#### 組合員（地域住民）からの声

- ・ JAはいろいろな事業をやっていて、良い商品があるのにPRが足りない。
- ・ JAは農業関係の人しか利用できないと思っていた。

#### 今後の取り組みと成果目標

「総合事業PRチラシ」によりJA事業のPRをします。  
⇒JAの良さを知って頂きJAファンを増やします。

### 「准組合員の農業やJAに対する理解を促進します」

#### 組合員（地域住民）からの期待

- ・ JAならではのサービスがあったらよい。
- ・ 収穫体験等のイベントを実施してほしい。

#### 今後の取り組みと成果目標

農業体験イベントを通じて、農業や地域への関心が高まります。  
⇒農業やJAの協同活動に対する理解者、共感者が増加します。

